

坂総合病院医学生だより

坂 坂

〈発行〉

坂総合病院

医学生と共に歩む委員会

連絡先・塩釜市錦町16-5

☎ 022-367-9007

2011年 11月 1日

No. 59

(左) 医学生のつどい参加者のみなさん。(右) 震災からの復興支援を訴える千葉医師。



医学生のつどい 医師像を語り合える場

みなさんこんにちは、坂総合病院1年目研修医の千葉茂樹です。4月から始まった初期研修は9月に1回目のローテートがあり、消化器科から呼吸器科への移動となりました。日に日に業務も増え忙しくなる一方ですが、学生のみなさんに負けないよう頑張っていきたいと思いません。

今回は8月16~18日に滋賀県で開かれた「第32回医学生のつどい」に助言者として参加してきたので、その報告をしたいと思います。

医学生のつどいとは

はじめに「医学生のつどい」とは何かというと、正式名称は「民医連の医療と研修を考える医学生のつどい」といいます。「医学生のつどい」は、年1回の本番前まで、各地域(県)で自分たちの興味がある問題(医療問題に限らず)について学んだり、つどい実行委員会という準備段階を経た集大成として開かれています。これまで各地域で学んだことを共有し深める場所で

あるとともに、全国の医学生と話し合い自分の医師像を考え・深め、どのような研修・医療をしたいか考える場でもあります。具体的には全国各地から医学生が集まって、フィールドワーク(FW)や討論(SGDと言っています)などをします。

ここまでの話だと参加する敷居が高いと思うかも知れないですが、そんなことはありません!誰でも参加は自由で、夜はみんなで集まりお酒を飲みながら交流します♪(朝方まで続くことも...)全国各地から学年を超えていろいろな医学生と語り合える非常に貴重な機会だと思います。そんな「つどい」は去年は宮城県での開催でしたが、今回は近畿ブロックが主管で滋賀県での開催となりました。

テーマは「震災と復興」

今回の「つどい」のテーマは「震災と復興」で、医学生のみなさんにも多大な影響を与えたであろう東日本大震災についてが主題でした。全国

各地の医学生の関心は高かったようで、例年以上の参加者でした。今回の参加者の中には、もちろんあまり震災の影響がなかった人も多く、ただその中でも医学生一医療者として今回の震災の復興にどう関わっていくべきか考えたい！という強い気持ちで、このような大勢の参加を得た一番の理由だったと考えています。

宮城からの参加者は、東北大学の2年生が1名、他に宮城民医連の奨学生（宮城民医連から奨学金をもらっている人）が3名参加しました。まさに被災地からの参加ということで、今回の我々の参加は復興に携わる人間としては有益な知見が得られるとともに、たくさんの人に被災地の実情を知らせるという意味でも大切なものだったと思います。行きは仙台空港から伊丹空港までのフライトでしたが、震災後初めて見る仙台空港周辺の変貌ぶりに、この宮城の地から発信すべきことの大きさを改めて実感した気がしました。

「つどい」本番は午後からの開催で、午前中に前泊地の京都から電車で移動しました。実は、私が2007年に参加した「第28回医学生のつどい」も滋賀県開催であり、会場も今回と同じく琵琶湖グランドホテルでした。そのため、ホテルに到着するととても懐かしい感じがしましたが、今回は医学生という参加者ではなく、助言者というアドバイスする立場であることに、少し身が引き締まる思いがありました（汗）

初日、被災地の病院より報告

初日は被災地からの報告ということで、坂総合病院の救急部佐々木隆徳先生が記念講演されました。内容は、震災初動の様子から研修医の活躍、全国の支援の様子などが報告されました。話の中で、震災の中で求められた「General Mind」のことや今後の我々の医療活動は、ぜひ機会があれば参加できなかった医学生のみなさんにも聞いてもらいたいです。その後シンポジウムとして、4人の先生が講演されました。今回の「つどい」の重要なテーマとして、阪神淡

路大震災の復興の経験から、何を学びとって活かすか、反省点は何なのか学び考えるという点がありました。シンポジウムは各先生から専門的な話があり、その後の上記の点を踏まえSGDへと続けました。

SGDに助言者として参加しての感想は、医学生のみなさんはかなり詳細な情報を持っており、かつしっかりと自分の考えも持っているなど関心させられました。しかし、被災地の人間としてはどこか議論が現実には即していない机上なもの感じもし、被災地からの言葉として多少は医学生の参考になる話ができただけかと思っています。

SGD終了後の全体での夕食会のあと、交流会もありました。私が学生時代に知り合った医学生さんと話せたり、当日同じグループになった方とも交流を深められて、学生時代に戻ったかのようにとても愉しかったです。参加者のみなさんは他の医学生や職員の方と大いに話せて、素晴らしい時間を過ごせたのではと思っています。ただ、学生さんに付き合っただけで夜遅くまで飲み会に参加はできませんでしたが（汗）

また、全体交流会では坂病院でやっている「仮設DE縁日」の募金の訴えをさせていただきました！ご協力いただいたみなさんには心より感謝申し上げます。「仮設DE縁日」の詳細は述べませんが、興味のある方はご連絡下さい♪

ここまででかなり長くなりましたが、話は2日目へと続きます…

それぞれの被災地 神戸と南三陸

2日目は今回の「つどい」のメインとなる、神戸長田区でのFWでした。朝7時半にはホテル発ということで、朝食も朝5時半から！という非常に早いものでしたが、その分しっかり神戸でFWできたと思います。神戸の長田区は、阪神淡路大震災でもっとも被害を受けた地域であり、津波ではなく火災によって地域のほとんど全ての家が消失した場所です。私の実家の宮

城県南三陸町は、津波で町が消滅したとっていい状況であり、同じような状況から復興した神戸の街を見てその実情を知るとは、助言者という立場を超えて一参加者としてとても愉しみにしていました。

住民を顧みなかった復興

バスに揺られ到着した神戸の街並みは非常にきれいで、とても震災があったとは思えません。白と水色の世界というのが長田FWに出る前の神戸のイメージで、完全に震災の被害から復興したと思っていました。

神戸でのFWは、はじめ長田区のピフレホールで神戸の議員、ホームレス支援者、被災者、街づくりプロジェクト代表の方のリレートークがありました。映像を含めてのリレートークだったので、神戸の復興までの歩みをしっかりと理解できたと思います。そこで、神戸の復興が真に自分たちが望んだ姿の復興ではなく、「人間不在の復興」だということも知りました。その現実には実際に長田区の街に出て知ることになります……。

長田区の街は外観こそ震災の爪痕を残すものはほとんどないですが、失われた個人宅や個人商店は個々に再建したのではなく、集合住宅とかたちをとっての再建でした。そのため、自分が思い描くように生活したり、商売したりすることができず、結局長田区を去った人が大勢います。震災前までは神戸で一番人口の多い区であった長田区は、震災後人口が半減し最少の区になってしまいました。

まさにその地に住む住民を顧みなかった復興の産物だと思います。長田区には住民が待ち望んだ「懐かしい未来」は未だに訪れていないということなのでしょう。今回の東日本大震災では、長田区のようにすべてが消滅した町が数多くあります。遥か遠い未来になるだろう再生の姿に希望を抱いていましたが、非常に厳しい現実には身をつまされる思いでした。

しかし、その中で奇跡的な出会いもありまし

た。長田区のあるお茶屋さんにFWでお話を伺いに行ったのですが、その方の話の途中から故郷の南三陸町の話が出てきました。なんとその方は阪神淡路大震災の際に、南三陸町のある方に助けられたことをきっかけに、その恩返しとして南三陸町のために神戸の教訓をもって復興の援助をしてくれている方でした。私は震災時のニュースでその方を拝見したことがあり、話を聞いているうちに思い出して、全体への話が終わった後、合間を縫って短時間ですがお話をさせていただきました。その方も偶然の出会いに大変驚かれたようで、それ以降何度か連絡させていただいています。遥か神戸の人が遠い宮城の地のために協力して下さっている——震災は多くのものを奪いましたが、新しい多くの「人と人とのつながり」もつくったのだと実感し、私たちを支えてくれている方が大勢いるということに本当に感謝の気持ちで一杯でした。

FWで見聞したことは、大震災からの復興は非常に厳しいものですが、それを乗り越えるだけの人間の強さがあるということでした。長田区に立つ実物大の鉄人 28号のように（みなさんご存知ですか？）、これから力強く歩みたいと励まされたFWでした。そして仕事のため私は2日目での帰宅となりました。

数年後自分はどんな医師に？

後半はかなり私事になってしまいましたが、私だけに限らず特に宮城から参加したメンバーは復興に向けてのヒントを数多く学んだと思います。そしてそれ以上に、医学生のみなさんは全国の仲間と自分の目指す医師像などについて語り合えて、今後自分がどうしていきたいか、その思いを高められたのではないのでしょうか。

最後に、「医学生つどい」は貴重な知識や経験を得る場である以上に、普段はなかなか話せない自分の目指す医師像などについて存分に語り合える場です。来年はぜひ坂坂を呼んで下さっているみなさんも参加してみたいかがでしょうか？

ようこそ坂病院へ

高校生・予備校生1日医師体験開催

医学生の皆さんは、大学入学前に病院の見学や体験学習などをしたことがあるでしょうか？坂病院では毎年、春休みと夏休みに「高校生・予備校生1日医師体験」を行っています。今年は隣町にある私立のS校にご案内したところ、参加希望者が30名いる！とのことで急遽S校向けの特別スケジュールを組むことになりました。



「1時間目」は医師同行。医師と一緒に動いてつぶさに仕事ぶりを見つめます。「ドラマの医師はクールだけれど、実際は患者さんとの人間関係を大事にする温かみがあって安心。でも質問に難なく答える研修医の姿はクール！」と2年生のSTくんの感想。他のみんなも、思い描いていたよりコミュニケーション能力が必要とされることを感じ取っていたようです。

「2~4時間目」は薬局・検査室・放射線室を訪問し、病院の裏側で活躍するスタッフに話を聞きながら業務体験をしました。入院患者さん1人1人に薬の説明をする薬剤師を見て、やっぱり「コミュニケーションが大切」。*エンシュアリキッドの味比べもしました。検査室では肺機能検査に挑戦したり、顕微鏡で細菌を見てみたり。放射線室ではCTで3D表示した画面を操作して臓器を色々な方向から見てみるなど「ハ



イテク」機器にも触れました。

お昼休みはお弁当を食べながら医局で交流会、ちょうど実習で訪れていた医学生さんたちもノリノリで対応してくれました！気さくで愉快的先輩たちが、受験や学生生活についてお話ししてくれて情報収集もバッチリ？

医師体験常連のYSくんからは「医師が一番目立つ存在ではあるが、様々な人に支えられて診療を行っているということが分かった。坂病院は協力し合って働いている姿がよく見られて良い雰囲気だと思う。」との感想をいただきました。「大変そうだけど、やりがいを感じた」との感想もたくさんの参加者から寄せられました。患者さんの立場ではたらく医師が、ここから一人でも多く誕生したら嬉しいですね。



*術後の栄養保持や、長期にわたり食事を経口摂取することが困難な場合の栄養補給に用いられます。

研修病院 悔いのない選択を



『海岸線でサーフィン、週末は仙台でサッカーや野球観戦、休日はしっかり保障、やりたいことがやれる楽しい病院』の売り文句を真に受けて、僕はここに決めました。

売り文句は大体嘘であることに気が付いたとき、すでに1年半が過ぎました。

失敗ばかりで悔しかった

2010年4月に僕はここで初期研修を始めました。4月はオリエンテーションで5月から病棟実習が始まりました。

でも、何にもできませんでした。薬品名もわからない、投与量もわからない etc.。病棟で何にもできない状況で、夜間当直も救急車当番も始まりました。当院では病棟・救急車対応は上級医、walk-in は研修医が対応します。軽症から重症までさまざまですが、ただの風邪も初めてのときは超重症疾患に見えました。軽症だと思った重症もいっぱいありました。

『医者、思ってたよりもきついな』と思いました。誤診はするし、手技はうまくならないし、失敗ばかりの毎日にへこんでいました。自分の実力の無さが本当に悔しかったです。

充実の日々

秋が来て、冬になって、気が付いたら一年経って、春が過ぎ去って夏も終わりました。気が付いたら、夜の当直が面白くなっていました。患者さんを診断し、治療方針を決め、処方を検討する。重症の場合は、上級医にコンサルトし、

緊急治療の必要性を判断する。わくわくするようになっていました。入院患者が退院していくときには、やりきった、と充実感を感じるようになっていました。失敗を悔やむ日も多いけど、医者になってよかったと思う日も増えました。救急車当番のヘビーローテーションのおかげで、ひとまずはどんな疾患が来ても大丈夫、という度胸が付きました。

気が付いたら、一年半が過ぎました。売り文句が大体嘘だと分かったころに、僕は『やりたかった仕事を楽しくやっている』ことに気が付きました。

みんなに温かく育ててもらった

この病院は伝統ある研修病院だからこそ、病院全体で研修医を育ててくれます。

上級医だけでなく、看護師さん、検査技師さん、放射線技師さん、薬剤師さん、事務の皆さん etc.が温かく指導してくれました。おかげ様で、少しでも研修医らしくなれました。

この記事を読んでいる皆様はどのような一年を過ごしましたか？この新聞は医学生を対象としていると聞きましたが、大学生活を楽しんでいますか？研修医生活も結構楽しいものですよ。

二度とない人生ですが、もしかりに大体嘘だということがわかっている、もう一度この病院で研修することを僕は選ぶと思います。

.....
神宮 大輔 秋田大学2010年卒業。

11 世代会

大正ロマンで リフレッシュ

こんにちは。研修医1年目の佐々木美里です。今回は「世代会」というものについてご紹介します。

坂総合病院の初期研修の特色の一つとして、世代会というものがあります。当院では「リフレッシュ休暇」と称した個人でとる夏休み(1週間)とは別に、同期の全員で年に1回1泊2日の小旅行が確保される「世代会」というものがあります。土曜の午後から日曜の午後まで丸1日半は保障される制度で、同期で温泉に行ったり、海水浴に行ったり、キャンプをしたり、スキーに行ったりなど各世代によって思い思いに過ごしているみたいです。



私達まったり系の‘11卒世代の7人は、満場一致で「温泉旅行」に決定し、9/24、25に大正ロマン溢れる山形・銀山温泉に行くことになりました。土曜の午前には通常業務を行って、連日連夜なりやまないPHSの電源をオフ!!いざ山形へと赴いたのでした。

車を持っている私ともうひとりがドライバー。他のメンバーはくじびきで乗る車を決めたりして、そのときばかりは学生に戻った気分でお出立♪車内では自分が経験した症例について話し合



ったり、回っている科の特徴とか過ごし方とか○○先生との付き合い方とか(笑)つついっオフレコ話に花が咲いちゃいました。普段、科が違って全員揃うのは珍しくて、大盛り上がりの車内に揺られてあつという間に銀山温泉に到着。

山形の銀山温泉は、小川を挟んで大正レトロな旅館が立ち並び、中にはかの有名なジブリ映画「千と千尋の〜」の湯屋のモデルになった旅館が佇む、ちょっぴり不思議で懐かしい雰囲気温泉街。さっそく浴衣に着替えて街を闊歩してミニ鍾乳洞を探索し、山菜懐石を楽しんで花笠音頭を眺め、露天風呂に入りながら日常を忘れ、心も体も癒されちゃいました♪夜は地酒を酌み交わしながら、グータンヌーボばりの恋愛トークで同期のみんなとも仲が深まって、充実した2日間でした。

疲れをリセットしてまた明日からお仕事頑張ろう!って思えちゃう、世代会っていう制度って素敵でしょ?



佐々木 美里 2011年 福島県立医大

職場紹介：5階病棟

病棟懇談会開催中

～安心できる療養生活のために～

5階病棟看護師 佐藤真奈

私の勤務している5階病棟は、明るく元気で笑顔の素敵なスタッフが日々患者様のケアにあたっています。

5階病棟は、婦人科・整形外科・救急部や形成外科などの様々な科が混合しています。時には内科系の疾患の患者様が入院されることもあり、専門的な知識はもちろん幅広い患者層への対応が必要とされる科です。その為、私たちスタッフは月に1回のペースで学習会を開催しています。医師をはじめ、研修医の先生方、認定看護師の方などに講師を依頼し、忙しい勤務の中で知識の向上に取り組んでいます。

また、整形カンファレンス・救急カンファレンスを週1回開催しています。医師・看護師・病棟マネージャー（病棟担当の事務）・リハビリスタッフや、整形カンファの場合、術後リハビリ目的に3階の回復期リハビリ病棟に転科される患者様も多いので、3階病棟の医師・看護師の方も参加して入院時から入院中、退院時などの患者様の治療・ケア等について話し合う機会を設け、職種間の意見交換も活発に行われています。

その他に、月に1回病棟のデイルームにて病棟懇談会を行なっています。病棟懇談会では、自由参加ですが病棟の患者様や家族、時には他病棟の患者様方にも参加していただき、当科の師長さん・病棟マネージャーの方が司会進行し、救急部の医師(主に研修医)に学習会という形で話をしています。

ちなみに、夏場の懇談会では熱中症の話をしていただきました。その他にもストレスチェックをしたり、集まってきた方と一緒にインストラクターの先生をお呼びして簡単なストレッチをしたりと、患者様や家族の方からの意見を取り入れることを目的に、交流の場やリラックスしていただける機会を作るよう取り組んでいます。

様々な科が混合している5階病棟ですが、知識向上のために学習会を開催したり職種間でカンファレンスを行ったり、患者様・家族との交流の機会を設けたりと、1人1人の患者様に丁寧に対応できるよう心がけ、日々楽しく勤務しています。



職場紹介：生理検査室

医師との連携でより良い医療の提供に

臨床検査技師 及川雅代

学生のみなさん、こんにちは。あまり馴染みがないかも知れませんが、臨床検査技師の紹介をさせていただきたいと思います。

私たちの仕事は、検体検査と生理検査の大きく2つに分けられます。検体検査は、血液や尿をはじめ、便、喀痰、関節液、髄液など、体液中の各種の物質の濃度や働きを測定する検査であるのに対し、生理検査は患者さまに直接触れて行う検査です。



当院生理検査室は16名のスタッフで、心電図、眼底検査、肺機能検査、脳波、神経伝導検査、聴力、超音波検査などの多様な検査を分担して行っています。患者さまに待ち時間なく対応できるよう予約時間を設けて検査をしています。外来、病棟、救急室からの緊急を要した検査の依頼も多く、検査待合室が患者さまで溢れかえっている日もあります。医師と連携しながら、よりよい検査を提供できるよう日々忙しく、でも明るく元気に仕事をしています。

興味を抱いてもらえるようなメニューを揃えて、スタッフ一同みなさんのお越しをお待ちしていますので、是非見学に来てみてください。

宮城県医連

医学生のつどいのご案内

【日時】 2011年12月27日（火）10：00～28日（水）朝*

*希望者は28日午前に被災地訪問の予定。

【場所】 坂総合病院、松島町・ホテル大観荘

【内容】

- 5～6年生対象 11：00～13：30 「初期臨床研修について考えよう」
初期臨床研修制度の説明、坂総合病院の研修制度の説明、研修医との懇談会
- 全学年対象 14：00～17：30 「被災地の現状と原発問題」
原発・放射線被害の学習、被災地の現状の報告、SGD（Small Group Discussion）
- 交流会 坂総合病院の医師、コメディカルの職員が参加。

*お問い合わせは下記までご連絡ください。

宮城県民主医療機関連合会 電話 022-265-2601 または <http://www.miyagi-min.com/>